

ノースドックの追浜工場跡地移転に関する意見への市長コメント

5月21日の参議院外交防衛委員会において、日本維新の会の松沢成文参議院議員から、米軍施設である横浜ノースドックを日産追浜工場跡地へ移転の提案があったが、本市としては到底受け入れられるものではない。

横須賀市は、戦後、旧軍港市転換法に基づき、平和産業港湾都市を市是として、旧軍用地を公共施設や産業用地として転用を進めてきた。日産追浜工場についても、元々は旧軍用地であったが、追浜地区の工業団地の中核として転用を進め、国との粘り強い交渉を経て、米側から約80万平方メートルの提供水域の返還を受け、埋め立ても行われてきた。

日産追浜工場については、これまで横須賀市の経済の発展に大きく貢献いただいていたが、昨年7月に、追浜工場の閉鎖の発表があった。非常に残念な発表ではあったが、その跡地の活用については、日産自動車社の経営再建に資することが最優先としながらも、日産自動車社に対しては、地域の活性化など横須賀市の発展に資するような活用について、要望してきたところである。

これまで本市は、「可能な限りの米軍基地の返還と自衛隊施設の集約統合」を基本構想、基本計画に掲げながらも、米軍基地、自衛隊施設が所在するまちとして、日本の安全保障に貢献してきた自負がある。日本の平和のため、防衛施設が市民の理解を得ながら安定的に運用されるべく、様々な課題に取り組んできた。

このような、本市の歴史や努力、そして基本姿勢を、全く理解されない中での、前神奈川県知事でもあった松沢議員の参議院外交防衛委員会における発言については、到底看過できるものではなく、強い憤りを禁じえない。

2026年5月22日

横須賀市長 上地 克明